

No.	実施大学	授業科目名	担当教員	単位数	開講区分	曜日	予定回数	時間	実施場所	定員
106	拓殖大学	日本語音声学	齋藤 純男 外国語学部 教授	2	前期	火	13	オンデマンド	拓殖大学 八王子国際キャンパス	5

【授業の目的及び到達目標】

日本語の音声を指導できるようになるための基礎的知識を得ることを目的とします。日本語の音声を人間が言語に用いている音声全体の中において理解し、客観的に観察・記述することができるようになることを到達目標とします。

【授業内容】

1. 音声と音声学、音声器官

音声とは何か、音声学とは何かについて基本的な知識を得たあと、音声を発するために使用する器官について学びます。

課題のフィードバックは次回の講義資料の始めで行います。

2. 単音産出の仕組み、音声記号

音声が出る仕組みの全体像を得たあと、音声を記述するための記号について学びます。

課題のフィードバックは次回の講義資料の始めで行います。

3. 子音 1

子音の調音の仕組みを学びます。

課題のフィードバックは次回の講義資料の始めで行います。

4. 子音 2

日本語教育で知っておく必要のある子音についてその特徴を学びます。各子音の音声学的名称についても学習します。

課題のフィードバックは次回の講義資料の始めで行います。

5. 子音 3

子音のさらなる特徴について学びます。

課題のフィードバックは次回の講義資料の始めで行います。

6. 母音

母音の調音の仕組みを学んだあと、日本語教育で知っておく必要のある母音についてその特徴を学びます。

課題のフィードバックは次回の講義資料の始めで行います。

7. 現代共通日本語の音声 1

現代共通日本語の母音について学びます。

課題のフィードバックは次回の講義資料の始めで行います。

8. 現代共通日本語の音声 2

現代共通日本語の子音について学びます。

課題のフィードバックは次回の講義資料の始めで行います。

9. 音節とモーラ

単音が連続したときに見られる区切りの単位と時間の単位について学びます。

課題のフィードバックは次回の講義資料の始めで行います。

10. アクセント 1

アクセントとは何かについて知ったあと、日本語のアクセントについて学びます。

課題のフィードバックは次回の講義資料の始めで行います。

11. アクセント 2

日本語の複合語のアクセントや アクセントと単音の関係について学びます。

課題のフィードバックは次回の講義資料の始めで行います。

12. イントネーション

イントネーションとは何かを学んだあと、現代共通日本語のイントネーションについて学習します。

課題のフィードバックは次回の講義資料の始めで行います。

13. リズム、ポーズ

ことばのリズムについて学びます。

話し言葉におけるポーズの役割について学びます。

第 13 回の課題は試験形式のレポートとなります。

※拓殖大学の授業時間は、1 時限 105 分となっています。

【授業の方法】

毎回の講義資料と課題をまとめて 1 つの PDF ファイルにして、Blackboard の「課題」のところに配布します。(回によっては MP3 の音声ファイルもいっしょに配布されることがあります。)

課題に関するフィードバックは次の回の講義資料の中で行います。

質問は、個別にはではなく、「掲示板」の中の「フォーラム」でしてください。

【予習・復習】

学んだ内容について毎回きちんと復習してください。

課題は復習型のものと予習型のものがあり、回によって異なります。

【成績評価方法】

課題の期限内の提出を 50%、試験形式のレポートを 50%として総合的に評価します。

【参考書、教材等】

教科書： 使用せず、講義資料を配布します。

参考書： 齋藤純男『日本語音声学入門 改訂版』三省堂

※ この授業は、4/18 (火) が初回です。